

## 土木学会四国支部「土木紀行」No.23(高知県)

### 「はりまや橋」

高知の街の中心部、赤い欄干が美しく輝く小さな橋がある。高知駅から南に約 800 メートル、多くの観光客が訪れる観光名所のひとつとなっている「はりまや橋」である(写真-1)。はりまや橋は、江戸時代の初期、堀川を隔てて住んでいた豪商播磨屋と櫃屋(ひつや)がお互いの往来のために架けた橋が、播磨屋にちなんで「はりまや橋」と呼ばれるようになった<sup>1)</sup>。



写真-1 はりまや橋

よさこい節で有名な、「土佐の高知のはりまや橋で坊さんかんざし買うを見た」という歌詞には、はりまや橋にまつわる悲しい恋物語が込められている。時代は安政2年、修行僧が恋に落ち恋人に「かんざし」を買い与えるなど考えられない時代であった。竹林寺の僧「純信」と、いかげ屋の娘「お馬」の恋物語りには、様々な説が伝えられている。その昔、純信はお馬に恋をした。そしてこのはりまや橋のたもとの小間物屋で、お馬のためにかんざしを買った。しかし純信は修行に励む身。このことが噂になり、二人は讃岐の国へと駆け落ちを図った。しかしその途中で連れ戻され、さらし者にされた後、純信は国外追放、お馬も追放の処分を受けた<sup>1)</sup>。

純真とお馬の恋物語の舞台を一目見ようと訪れる人も多いはりまや橋であるが、以前は長さ 20mほどの御影石製の橋の欄干があるだけ(写真-2)で、川も埋め立てられていることより「日本三大がっかり名所」のひとつとも言われていた。



写真-2 御影石製の橋の欄干<sup>2)</sup>

しかし平成 10 年に「はりまや橋公園」としてリニューアルされ、全国から寄せられた 680 件の「はりまや橋」に対する整備のイメージを基に、江戸期のはりまや橋として木づくりの橋が再現された(写真-1)。赤い欄干が美しく輝く橋のたもとには純信とお馬のよりそうモニュメントが立ち(写真-3)、二人の恋物語が再現されているようである。橋の下は地下道になっており、地下通路の東西の地下広場には、はりまや橋の由来やその変遷(写真-4)、純信・お馬の物語、よさこい祭の紹介パネル(写真-5)が展示されている。



写真-3 純信・お馬の  
モニュメント



写真-4 はりまや橋旧欄干

また地下道を通り抜けて、反対側へ出ると、明治の鑄鉄架橋当時の姿に復元されたもう一つのはりまや橋がある(写真-6)。時代の遷り変わりにより、実はたくさんのはりまや橋があるのである。高知にお越しの際は、ぜひたくさんのはりまや橋をご覧になってはいかがでしょうか。

(高知高専専攻科建設工学 1 年安藤しおり)

参考文献

1)はりまや橋

<http://www.katsuo.co.jp/kankou/harimayabasi.html>

2) 高知／3つの“はりまや橋”をご存知ですか？ | 国内現地生情報 | 阪急交通社ブログ

<http://blog.hankyu-travel.com/kokunai/00600/00601/2007/002060.php>



写真-5 よさこい祭の紹介パネル



写真-6 明治のはりまや橋<sup>2)</sup>